

平成28年度 宇治田原町子ども・子育て支援事業進捗状況の点検・評価シート

No. 1

事業名	時間外保育事業(延長保育)
担当課	健康児童課(保育所)
事業内容	保育所入所中で延長保育が必要な児童を、朝夕の延長保育時間中に保育する。 (時間) 朝7:00~7:30、夕18:30~19:00 (利用料) 月単位 朝1,000円 夕1,000円 朝夕2,000円 日単位 朝 100円 夕 100円 朝夕 200円保
確保方策	町立保育所(1か所)

進捗状況(計画・実績値)及び評価

＜計画・実績値＞		実績は3月末現在の利用実人数				
単位:人		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み(A)	133	132	125	122	120
	確保の内容(B)	133	132	125	122	120
実績値	申請児童数(C)	67	79			
	認定児童数(D)	67	79			
	過不足(D)-(C)	0	0			
	利用率(A)	50.4%	59.8%			
	利用率(B)	50.4%	59.8%			
評価	評価指標1	○	○			
	評価指標2	○	○			

※利用率(A):量の見込みと認定児童数との比較((D) ÷ (A) × 100%)
 ※利用率(B):確保の内容と認定児童数との比較((D) ÷ (B) × 100%)

- 評価指数1:計画通りに進められているか。
 評価指数2:確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。
 ○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに下回っている。
 △…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。
 ×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに上回っている。

成果・課題／自己評価

特に時間の延長について保護者からの要望なし。今後も継続して実施していく。

評価(意見)	今後の方向性
子育て支援の大切な事業であり、継続実施。	今後も継続して実施する。

事業名	放課後児童健全育成事業
担当課	社会教育課
事業内容	<p>○保護者が労働などにより昼間家庭にいない小学校に就学している児童を対象に、適切なあそび場や生活の場を提供し、その健全な育成を図る。</p> <p>○平成27年度より、対象を「小学4年生まで」から「小学6年生まで」の利用に拡大</p> <p>保育時間 平日：下校時～18:30 土曜日：7:30～18:30(長期休業期間も同じ)</p>
確保方策	田原元気っ子クラブ 宇治田原元気っ子クラブ

進捗状況(計画・実績値)及び評価

＜計画・実績値＞		実績は3月末現在の利用実人数					
単位：人		H27	H28	H29	H30	H31	
計画値	量の見込み(A)	118	115	119	120	119	
	低学年	60	60	66	71	70	
	高学年	58	55	53	49	49	
	確保の内容(B)	150	150	150	150	150	
実績値	申請児童数(C)	126	127				
	低学年	田原	54	37			
		宇治田原	39	49			
		計	93	86			
	高学年	田原	16	23			
		宇治田原	17	18			
		計	33	41			
	認定児童数(D)	126	127				
	低学年	田原	54	37			
		宇治田原	39	49			
		計	93	86			
	高学年	田原	16	23			
宇治田原		17	18				
計		33	41				
	過不足(D)-(C)	0	0				
	利用率(A)	106.8%	110.4%				
	利用率(B)	84.0%	84.7%				
評価	評価指標1	○	○				
	評価指標2	△	△				

※利用率(A):量の見込みと認定児童数との比較(D)÷(A)×100%)
 ※利用率(B):確保の内容と認定児童数との比較(D)÷(B)×100%)

評価指数1:計画通りに進められているか。
 評価指数2:確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。
 ○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに下回っている。
 △…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。
 ×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに上回っている。

成果・課題／自己評価

○平成28年7月より土曜・長期休業期間の開設時間を7:30～に拡充した。
 ○利用ニーズに応じ、希望者は全員受け入れている。
 ○田原学童においては施設が老朽化及び手狭になっており、今後整備の必要があるため、環境整備を図る。

評価(意見)	今後の方向性
<p>・土曜・長期休業中の拡充は、保護者にとってメリットが大きく、今後も継続実施。</p> <p>・全体の量の見込みは乖離していないが、低学年・高学年と分けてみた際には乖離がある。見込みの見直しの検討が必要。</p>	<p>・今後も継続して実施。</p> <p>・田原学童施設について、29年度に整備予定。</p> <p>・継続して指導員の資質向上を図っていく。</p>

事業名	子育て短期支援事業
担当課	健康児童課
事業内容	保護者の疾病などの理由により家庭において養育を受けることが一時的に困難となった児童について、児童養護施設などにおいて一定期間必要な保護を行う。 ○対象児童:0歳～小学校卒業までの児童 ○利用期間:原則7日(6泊7日)以内
確保方策	「京都大和の家」(精華町)に委託

進捗状況(計画・実績値)及び評価

量の見込み、確保の内容ともにニーズ調査で必要とする回答が少なく、数字が出なかった。

<計画・実績値>

実績は3月末現在の利用延日数

単位:日		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み(A)	-	-	-	-	-
	確保の内容(B)	-	-	-	-	-
実績値	申請児童数(C)	42	9			
	認定児童数(D)	42	9			
	過不足(D)-(C)	0	0			
利用率(A)		-	-			
利用率(B)		-	-			
評価	評価指標1	○	○			
	評価指標2	-	-			

※利用率(A):量の見込みと認定児童数との比較((D)÷(A)×100%)

※利用率(B):確保の内容と認定児童数との比較((D)÷(B)×100%)

※計画値に対する実績値を○×で判定

評価指数1:計画通りに進められているか。

評価指数2:確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。

量の見込み、確保の内容ともにニーズ調査で必要とする回答が少なく、数字が出なかった。

よって、量の見込み、確保の内容に対する

評価指標2での評価はできない。

成果・課題/自己評価

平成28年度の利用は延べ9人。支援の必要な家庭にとっての有効利用ができたと考える。

(1世帯、児童3人 延べ利用日数)

支援が必要な方に適切に情報が届くよう、ホームページ等を活用して事業内容のより有効な周知を計る。

評価(意見)	今後の方向性
大切な事業であるのに周知が不足しているので、周知徹底して継続実施。	今後も継続して実施し、制度の周知に努める。

事業名	地域子育て支援拠点事業
担当課	健康児童課(地域子育て支援センター)
事業内容	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う。 ○子育てサービス利用支援事業 ○パパの子育て応援事業 ○地域子育て支援事業 ○家庭支援カウンセリング ○地域で子育て「つどいの広場」
確保方策	地域子育て支援センター(1箇所) 地域子育てつどいの広場は、古民家を活用した「みんなの家」で実施

進捗状況(計画・実績値)及び評価

<計画・実績値>

実績は3月末現在の利用者数

単位:人日		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み(A)	3,948	3,912	3,648	3,564	3,516
	確保の内容(B)	4,955	4,955	4,955	4,955	4,955
実績値	利用者数(D)	3,035	2,622			
	利用率(A)	76.9%	67.0%			
	利用率(B)	61.3%	52.9%			
評価	評価指標1	○	○			
	評価指標2	○	○			

※利用率(A):量の見込みと認定児童数との比較((D) ÷ (A) × 100%)

※利用率(B):確保の内容と認定児童数との比較((D) ÷ (B) × 100%)

評価指数1:計画通りに進められているか。

評価指数2:確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。

○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに下回っている。

△…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。

×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに上回っている。

成果・課題／自己評価

○子育てサービス利用支援事業…専門員を配置し、利用者支援事業を実施。事業内容についての広報に努める。
○パパの子育て応援事業…土曜日に開催したが、パパの参加が少ないため日曜開催も検討する。
○いきいき孫育て事業…平成28年度新規事業。祖父・祖母世代に更に周知を図る。
○地域子育て支援事業…親子の広場等各種事業の開催や、子育てサークルに対する支援を実施。「トリプルP」「安心の輪子育てプログラム」等の連続講座開催により、育児不安が解消され親子関係が良くなったとの評価を得た。
○家庭支援カウンセリング…専門家による育児相談や指導を実施。相談を継続して受けられる環境を作っており、母親の精神的な負担の軽減に効果的である。
○地域で子育て「つどいの広場」…毎週火曜・金曜の午前10時～午後3時まで開館。地域の方々との交流や、異世代間の交流ができています。

評価(意見)

今後の方向性

「施策の展開」の評価欄に記載(子育てサービス利用支援事業 3頁、パパの子育て応援事業 24頁、いきいき孫育て事業 11ページ、地域子育て支援事業 10頁、家庭支援カウンセリング4頁、地域で子育て「つどいの広場」事業 10頁)

拡張移設により、プレイルーム利用者が増加しており、今後も多くの方に気軽に来てもらえるよう事業内容や周知について工夫に努める。

事業名	一時預かり事業
担当課	健康児童課(保育所)
事業内容	<p>保育所において、保護者の就労形態の多様化、急病や育児疲れ解消のため、一時的に保育が必要となる生後90日から就学前までの児童を預かる。また、里帰り出産等で一時的に居住している就学前児童も対象とする。</p> <p>利用実績(延べ人数)の内訳 保護者の就労等による利用 226人 保護者の病気等緊急利用 24人 保護者のリフレッシュ等上記以外の理由による利用 505人 計755人</p>
確保方策	町立保育所(1か所)

進捗状況(計画・実績値)及び評価

<計画・実績値>		実績は3月末現在の利用延日数				
単位:人日		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み(A)	439	435	405	397	390
	確保の内容(B)	1,054	1,054	1,054	1,054	1,054
実績値	申請児童数(C)	424	755			
	認定児童数(D)	424	755			
	過不足(D)-(C)	0	0			
利用率(A)		96.6%	173.6%			
利用率(B)		40.2%	71.6%			
評価	評価指標1	○	○			
	評価指標2	○	△			

※利用率(A):量の見込みと認定児童数との比較((D)÷(A)×100%)
 ※利用率(B):確保の内容と認定児童数との比較((D)÷(B)×100%)

- 評価指数1:計画通りに進められているか。
 評価指数2:確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。
 ○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに下回っている。
 △…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。
 ×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに上回っている。

成果・課題/自己評価

保育所入所児以外の保護者の緊急的な一時利用や、保護者のリフレッシュ等に有効に活用されている。利用希望は年によってばらつきがある。加配保育士が必要となる特別な配慮が必要な児童の利用や、保育士の配置基準が厳しい乳児の利用が重なったときなど、利用日の変更をお願いすることがあった。保護者のニーズに対応するための体制整備が課題である。

利用料は3歳未満児は1日2,000円、3歳以上児は1日1,800円。別途給食代300円が必要。

評価(意見)	今後の方向性
ニーズに対応するための体制整備に努め継続実施。	保護者のニーズに対応した保育体制を整えるため、保育士の確保に努める。一時保育施設の拡充を図る。

事業名	病児・病後児保育事業
担当課	健康児童課・保育所
事業内容	保護者の就労等により家庭での保育が困難な場合において、病院・保育所等において、病気の児童を一時的に保育するほか、保育中に体調不良となった児童への緊急対応を行う。
確保方策	○体調不良児型：保育所の病児保育室 ○病児・病後児型：田辺中央病院 やすらぎ保育園

進捗状況(計画・実績値)及び評価

<計画・実績値>

平成28年度10月より事業開始

単位：人日		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み(A)	712	706	672	653	645
	確保の内容(B)	712	706	672	653	645
実績値	利用者数(D)	—	187			
利用率(A)		—	26.5%			
利用率(B)		—	26.5%			
評価	評価指標1	—	○			
	評価指標2	—	○			

量の見込み、確保の方策、利用者数については、体調不良児型。

※利用率(A): 量の見込みと認定児童数との比較((D) ÷ (A) × 100%)

※利用率(B): 確保の内容と認定児童数との比較((D) ÷ (B) × 100%)

体調不良児型(保育所の在園児が保育中に体調不良となった場合)の計画及び実績
病児・病後児(田辺中央病院の病児保育園利用)については、量の見込みを算出していない。
病児・病後児型は平成28年6月より事業開始し、28年度中の延べ利用児童数は8人。

評価指数1: 計画通りに進められているか。

評価指数2: 確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。

○…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに下回っている。

△…実績が、「量の見込み」を上回っているが、「確保の内容」を下回っている。

×…実績が、「量の見込み」と「確保の内容」ともに上回っている。

成果・課題／自己評価

平成28年度より事業開始

○「病児・病後児対応型」…京田辺市・井手町との広域連携により、京田辺市の「田辺中央病院」にて実施

○「体調不良児型」…保育所内の専用スペースで看護師を配置して10月より実施

評価(意見)	今後の方向性
「施策の展開」の評価欄に記載(13頁)	・病児・病後児型(田辺中央病院のやすらぎ保育園)の利用について、周知を徹底する。また、新たな施設の開拓など、充実を目指す。 ・体調不良児型について、安心かつ安全な保育体制を確保するため、継続して実施する。

事業名	ファミリー・サポート・センター事業
担当課	健康児童課(地域子育て支援センター)
事業内容	育児を手伝いたい方(まかせてたい)と、手助けをしてほしい方(おねがいたい)の相互支援を行い、子育てのサポートを行う。
確保方策	ファミリー・サポート・センター(1箇所)

進捗状況(計画・実績値)及び評価

子ども・子育て計画策定の量の見込みを定める際に参照した平成24年度の利用実績はなく、またニーズ調査においても利用希望はごくわずかであり、見込量を算出することができなかった。

<計画・実績値>

実績は3月末現在の利用実績

単位: 日		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	量の見込み(A)	—	—	—	—	—
	確保の内容(B)	—	—	—	—	—
実績値	実施件数(C)	45	48			
	利用率(A)	—	—			
評価	評価指標1	○	○			
	評価指標2	—	—			

※利用率(A): 量の見込みと認定児童数との比較((D) ÷ (A) × 100%)

※利用率(B): 確保の内容と認定児童数との比較((D) ÷ (B) × 100%)

※計画値に対する実績値を○×で判定

評価指数1: 計画通りに進められているか。

評価指数2: 確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。

ニーズ調査で必要とする回答が少なく、また平成24年度の利用実績がなく、量の見込み、確保の内容ともに数字が出なかった。よって、量の見込み、確保の内容に対する評価指標2での評価はできない。

成果・課題/自己評価

保育所や学童の時間外に預かりを希望する利用者が多いが、全体的な利用者数は減少している。急な依頼の場合は、まかせてたいの都合がつかず、断らざるを得ない場合がある。まかせてたいの登録会員の確保が問題である。

評価(意見)	今後の方向性
「施策の展開」の評価欄に記載(10頁)	利用者数の減少理由を分析し、引き続き育児を手助けする「まかせてたい」の登録会員の増員に努める。

事業名	妊婦健診事業
担当課	健康児童課
事業内容	妊婦を対象に、安心して妊娠・出産を迎えるため、健康診査に係る費用の一部を助成する。 ○母子手帳交付時に、14回分の妊婦検査受診券綴りを交付 ○委託医療機関以外での受信の場合は、検査費用の一部を助成
確保方策	委託医療機関に委託して実施

進捗状況(計画・実績値)及び評価

当該事業は、ニーズ調査項目外であったため、現状から予測される数値を見込みとして定めた。

<計画・実績値>

実績は3月末現在の交付件数

単位: 日		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	見込み(A)	109	107	104	101	99
実績値	実施件数(C)	67	51			
利用率(A)		61.5%	47.7%			
評価	評価指標1	○	○			
	評価指標2	—	—			

※見込み: ニーズ調査の項目になかったため、予測される数値

※利用率(A): 見込みと実施件数との比較 ((D) ÷ (A) × 100%)

※計画値に対する実績値を○×で判定

評価指数1: 計画通りに進められているか。

評価指数2: 確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。

ニーズ調査項目外であったため、量の見込み、確保の内容を定めていないことから、評価指数2の評価はできない。

成果・課題／自己評価

平成28年度の妊婦健診助成対象者数は51人
ストレスを抱える妊婦が増加する中で、母体や胎児の健康管理を図る上で妊婦健康診査は重要である。また、妊娠・出産に係る費用負担の軽減を図り、安心して妊娠・出産できる環境づくりに取り組んだ。

評価(意見)	今後の方向性
「施策の展開」の評価欄に記載(1頁)	今後も継続して実施する。

事業名	乳児家庭全戸訪問事業
担当課	健康児童課
事業内容	生後4ヶ月までの乳児のいる全ての家庭を保健師や助産師などが訪問し、子育て支援に関する専門的な相談・アドバイスをし、情報提供や養育環境などの把握を行う ハイリスクな世帯については、医療機関と情報共有し、妊娠から出産子育て期にわたり連携した支援を行う。
確保方策	保健師・助産師による訪問

進捗状況(計画・実績値)及び評価

当該事業は、ニーズ調査項目外であったため、現状から予測される数値を見込みとして定めた。

<計画・実績値>

実績は3月末現在の訪問件数

単位:日		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	見込み(A)	58	56	56	54	53
実績値	実施件数(C)	51	52			
利用率(A)		87.9%	92.9%			
評価	評価指標1	○	○			
	評価指標2	-	-			

※見込み: ニーズ調査の項目になかったため、予測される数値

※利用率(A): 見込みと実施件数との比較((D) ÷ (A) × 100%)

※計画値に対する実績値を○×で判定

評価指数1: 計画通りに進められているか。

評価指数2: 確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。

ニーズ調査項目外であったため、量の見込み、確保の内容を定めていないことから、評価指数2の評価はできない。

成果・課題/自己評価

出生数が減少したため量の見込みに対して実績数が少ないが、出生児童に対して100%訪問できている。母子健康手帳の交付時より各地域の担当保健師が対応して、母親との関係性を築き、母親の育児不安の解消に努めている。

評価(意見)	今後の方向性
全戸訪問が文字通り実施され、漏れがないことを確認の上、継続実施。	今後も継続して実施する。

事業名	養育支援訪問事業
担当課	健康児童課
事業内容	<p>保護者の育児ストレスや未熟児・多胎児などを養育している家庭など、養育支援が特に必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言などを行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保する。</p> <p>ハイリスクな世帯については、医療機関と健康児童課が情報共有し、妊娠から出産子育て期にわたり連携した支援を行う。 また不安の高い妊婦に対しては助産師による訪問を行い、出産・育児に対する不安解消に努め、出産後の継続的な支援も実施あいている。</p>
確保方策	保健師・助産師による訪問

進捗状況(計画・実績値)及び評価

当該事業は、ニーズ調査項目外であったため、現状から予測される数値を見込みとして定めた。

<計画・実績値>

実績は3月末現在の訪問件数

単位:日		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	見込み(A)	101	101	101	101	101
実績値	実施件数(C)	90	30			
利用率(A)		89.1%	29.7%			
評価	評価指標1	○	○			
	評価指標2	-	-			

※見込み: ニーズ調査の項目になかったため、予測される数値

※利用率(A): 見込みと実施件数との比較((D) ÷ (A) × 100%)

※計画値に対する実績値を○×で判定

評価指数1: 計画通りに進められているか。

評価指数2: 確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。

ニーズ調査項目外であったため、量の見込み、確保の内容を定めていないことから、評価指数2の評価はできない。

成果・課題／自己評価

乳児家庭全戸訪問事業や乳幼児健康診査事業で把握した支援の必要な世帯に対し、保健師が育児支援を行った。また不安の高い妊婦に対しては助産師による訪問を行い、出産・育児に対する不安解消に努め、出産後の継続的な支援も行っており、児童虐待の未然防止にも繋がっている。

評価(意見)	今後の方向性
要望を漏れなく聴取する工夫をし、継続実施。	今後も継続して実施する。

事業名	利用者支援事業
担当課	健康児童課(地域子育て支援センター)
事業内容	子ども・子育てに係る幅広い情報収集や提供を行い、教育・保育施設等の利用にあたっての助言・利用支援を行う。また、地域子育て支援センター事業と連携し、関係機関との連携・調整や地域の子育て資源の育成など、一体的に運営し、子育て家庭支援の機能強化を図る。
確保方策	子育て支援センターで利用者支援を実施

進捗状況(計画・実績値)及び評価

当該事業は、ニーズ調査項目外であったため、現状から予測される数値を見込みとして定めた。

<計画・実績値>

見込み・実績は箇所数

単位:日		H27	H28	H29	H30	H31
計画値	見込み(A)	1	1	1	1	1
実績値	実施件数(C)	1	1			
利用率(A)		100.0%	100.0%			
評価	評価指標1	○	○			
	評価指標2	-	-			

※利用率(A):見込みと実施件数との比較((D) ÷ (A) × 100%)

※計画値に対する実績値を○×で判定

評価指数1:計画通りに進められているか。

評価指数2:確保の内容が保護者のニーズ量を満たしているか。

ニーズ調査項目外であったため、量の見込み、確保の内容を定めていないことから、評価指数2の評価はできない。

成果・課題/自己評価

28年度で32件の相談があった。
利用者支援業務に専門員を配置。
子育て支援情報を幅広く掲載した子育て情報誌(就学まで/就学後の年代ごとに記載内容が異なる)を作成。
利用者支援に関する業務の強化、地域の実情にあった支援の仕方を検討していく必要がある。

評価(意見)	今後の方向性
「施策の展開」の評価欄に記載(3頁)	事業内容や、相談機能の充実を図り、継続して実施する。